

株主のみなさまへ



スーパーセシオ
SECIOPC

第 79 期事業報告書

蛇の目ミシン工業株式会社



株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また日頃より暖かいご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第79期（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）の営業の概況をご報告申し上げます。

営業の概況

当連結会計年度におきましては、原油価格の高騰等による原材料費アップや、米ドル独歩安により、製造コストが押し上げられる等、不透明さが増しております。一方、国内経済におきましては、設備投資や輸出が堅調に推移したものの、個人消費が低迷しデフレ傾向が続きました。

このような状況下での、当社グループ第79期の営業についてご報告申し上げます。

まず、事業セグメント別に営業の経過及び成果につきまして、ご報告申し上げます。

<ミシン関連事業>

海外ミシン販売につきましては、海外販売会社8社すべてが黒字を計上し、また、欧州・アジア向け販売ならびにOEM製品が好調に推移いたしました。しかしながら、北米・欧州のマスマーチャンダイジング向けビジネスが低調に終わったことにより、売上台数はほぼ前期並みとなりました。

以上の結果、海外ミシン事業の売上高は、247億3千9百万円（前期比3億6百万円増）となりました。

国内販売につきましては、直営支店販売において、専門性を求めるユーザーのニーズに応えるカバーステッチミシン等を投入するとともに、各種展示会への出展を通じて積極的な営業活動を展開いたしました。

一方、代理店向け販売では、通信販売等の拡大により市場の低価格化が急速に進む中、多様化する販売チャンネルに応じた代理店サポートや、新規販売ルートの開拓等を通じて拡販を図りました。

しかしながら、中・低価格ミシンの売上比率が上昇したことにより、国内ミシン事業の売上高は、115億1千9百万円（前期比3億5千4百万円減）となりました。

以上の結果、当期における国内外のミシン販売台数は、約183万台（前期比2.5%増）を記録いたしました。ミシン関連事業の売上高につきましては、平均販売単価の低下等により、**362億5千9百万円**（前期比4千7百万円減）の計上となりました。

<24時間風呂・整水器事業>

24時間風呂につきましては、新製品投入のもと、展示会出展ならびにテレビコマーシャル等による販売促進を通じて力強い営業を推し進めました。特に当期は、新規代理店開拓に意を用いるとともに、業務用屋外設置型についてもペンション・民宿などの宿泊施設を中心に顧客開拓に注力いたしました。

以上により、**24時間風呂・整水器事業の売上高は、30億8百万円**（前期比1億6千2百万円減）の計上となりました。

<産業機器事業>

産業機器につきましては、海外向け販売において、各種展示会等を通じてグローバルマーケットにおける「JANOME」ブランドの浸透を図りつつ販売活動を行ないました。国内向け販売は、好調が続く自動車関連業界における積極的な設備投資を背景に、エレクトロプレスを中心に売上を伸ばしました。また、他社商材とのコラボレーションを実現した卓上ロボットを提供するなど、新たな市場ニーズの開拓にも努めました。

以上、**産業機器事業の売上高は、35億6千1百万円**（前期比3億5千万円増）の計上となりました。

<その他サービス事業>

電算情報処理サービス、24時間風呂据付サービス等に、当社の不動産賃貸収入を加えた**その他サービス事業の売上高は、56億7百万円**（前期比5億6百万円減）の計上となりました。

<開発・生産>

当期の家庭用ミシンにつきましては、新たな顧客層の開拓をめざし、より専門性を迫及する需要家層の要望に応える製品を開発し、製品ラインアップの充実を図りました。24時間風呂では、浄化能力をさらに向上させた屋内設置型タイプ、大型浴槽対応タイプならびに深夜電力を利用する蓄熱式タイプの新製品を開発し、営業活動をバックアップいたしました。また、産業機器につきましては、他社と共同で新たな市場ニーズをターゲットにした卓上ロボットシリーズや、大型サーボスカラロボットを開発いたしました。

一方、生産につきましては、原材料費が大幅に上昇する中、製造工程の見直しや、TPM活動（Total Productivity Management：生産効率を極限まで高めるための全社的生産革新活動）の強化を図り、より一層の原価低減と品質向上に注力いたしました。

以上により、当期の営業成績は次のとおりとなりました。

【当社グループ】

総売上高は、**484億3千8百万円**（前期比3億6千6百万円減）の計上となりました。

営業利益につきましては、**34億4千7百万円**（前期比11億9千8百万円減）の計上となり、**経常利益**につきましては、**25億3千8百万円**（前期比12億8千4百万円減）の計上となりました。また、**当期純利益**につきましては、下記のとおり貸倒引当金を特別損失に計上したこと等により、**45億1千2百万円**の損失計上となりました。

【当社】

総売上高は、**383億6千8百万円**（前期比5億7千万円減）の計上となりました。**営業利益**につきましては、**16億8千万円**（前期比4億4千7百万円減）の計上となり、**経常利益**につきましては、**23億2千2百万円**（前期比3億4百万円増）の計上となりました。また、早期復配に向けて財務体質の健全化を図る観点から(株)ナトミ向け和議債権に対する貸倒引当金70億円を特別損失として計上したこと等により、**当期純利益**につきましては、**39億1千5百万円**の損失計上となりました。

なお、株主のみなさまには誠に申し訳なく存じますが、当期の配当金は無配とさせていただきます。

当社グループは、平成16年4月に「新2ヵ年計画（STEP-2 PLAN）」を策定し、

- ① 平成18年3月期における連結売上高営業利益率10%を達成する
- ② 成長性（売上拡大及び収益向上）を追求する
- ③ 有利子負債の削減により財務体質を強化する
- ④ 繰越損失を一掃し、復配可能な体制を整える

こと等を目標に掲げ、鋭意業績向上に取り組んでまいりました。

しかしながら、当期は、原材料費の高騰、米ドルの独歩安等々の要因により収益を圧縮された結果、遺憾ながら当初の目標を達成することができませんでした。

今期は、再度、本計画の一年目の目標を確実に達成すべく、全社一丸となって邁進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月

代表取締役社長 **加藤 澄一**

連結貸借対照表

(平成17年3月31日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)	百万円	(負債の部)	百万円
流動資産	20,732	流動負債	20,901
現金及び預金	3,303	支払手形及び買掛金	3,864
受取手形及び売掛金	8,017	短期借入金	14,011
有価証券	1,210	未払法人税等	290
たな卸資産	7,312	賞与引当金	599
繰延税金資産	519	その他	2,135
その他	576	固定負債	27,190
貸倒引当金	△ 208	社債	3,000
固定資産	39,444	長期借入金	15,031
有形固定資産	23,637	再評価に係る繰延税金負債	3,932
建物及び構築物	4,631	退職給付引当金	4,409
機械装置及び運搬具	948	その他	816
土地	16,524	負債合計	48,092
建設仮勘定	295	(少数株主持分)	
その他	1,237	少数株主持分	537
無形固定資産	614	(資本の部)	
投資その他の資産	15,192	資本金	7,623
投資有価証券	7,391	資本剰余金	0
和議債権等	30,000	利益剰余金	△ 594
繰延税金資産	6,599	土地再評価差額金	5,732
その他	1,325	その他有価証券評価差額金	24
貸倒引当金	△ 30,123	為替換算調整勘定	△ 1,235
資産合計	60,177	自己株式	△ 2
		資本合計	11,547
		負債、少数株主持分及び資本合計	60,177

連結損益計算書

(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

		科 目			金 額	
経常損益の部の部	営業損益の部	営業収益	高		百万円	百万円
		売上				48,438
		営業費用	原価	一般管理	備費	23,637
	営業利益					3,447
	営業外損益の部	営業外収益	受取	配当	利息	税金
					31	12
					142	186
		営業外費用	支為	払替	による	利息
			持分	に	よる	損失
			そ	の	の	他
					742	144
					24	184
					184	1,095
		経常利益				2,538
特別損益の部	特別利益	固定資産	売却	益	108	108
	特別損失	貸倒	引当	金繰	入額	
		たな卸	資産	評価	及び	廃棄
		固定	資産	売却	及び	除却
	投資	の	他	の	評価	
					7,000	66
					65	32
					5	7,170
	税金等調整前当期純損失	法人税、住民税及び等株主純損				4,523
	法人税、住民税及び等株主純損					709
	法人税、住民税及び等株主純損					△ 801
	法人税、住民税及び等株主純損					81
	法人税、住民税及び等株主純損					4,512

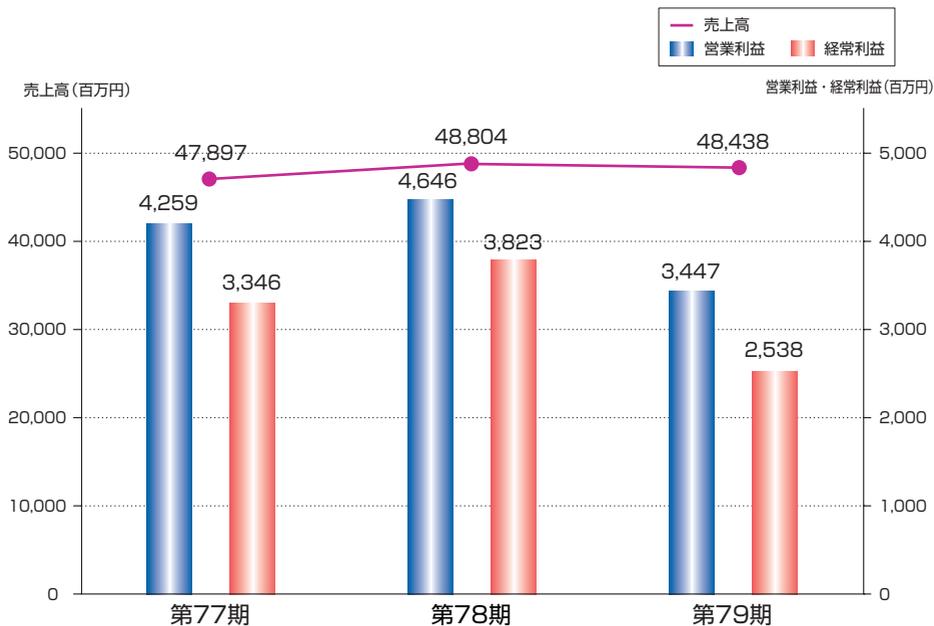
連結キャッシュ・フロー

(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

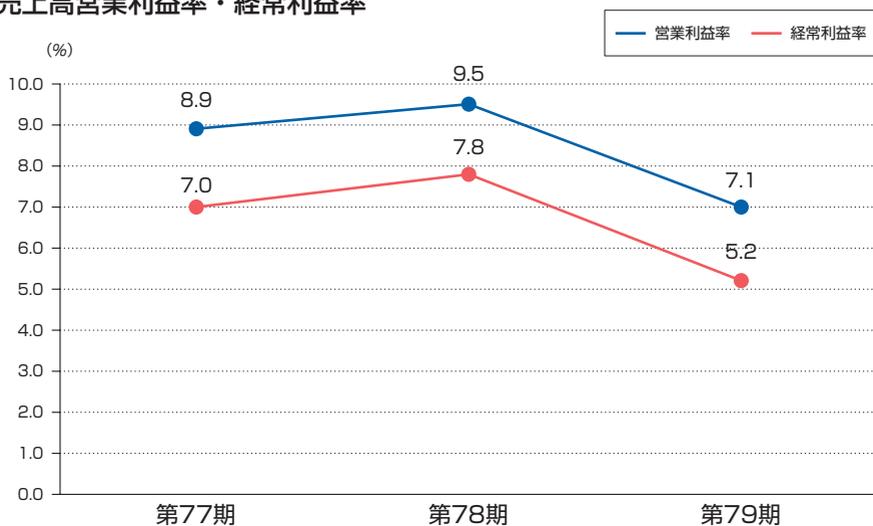
科 目	金 額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,635	百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,137	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,721	
現金及び現金同等物に係る換算差額	26	
現金及び現金同等物の増減額 (減少: △)	△ 1,197	
現金及び現金同等物の期首残高	4,283	
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	93	
現金及び現金同等物の期末残高	3,179	

連結決算概要

●売上高・営業利益・経常利益



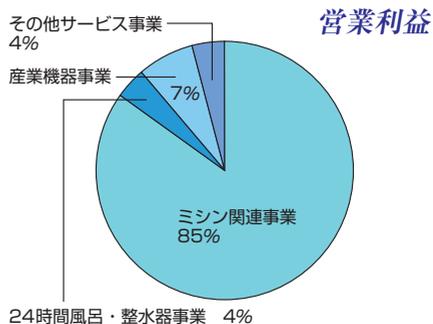
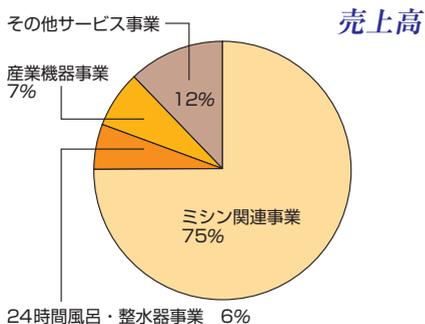
●売上高営業利益率・経常利益率



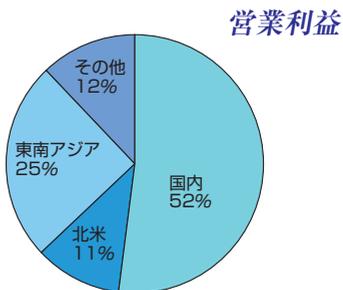
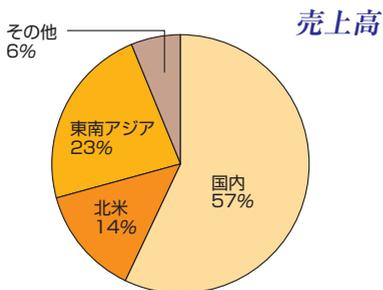
連結セグメント情報

(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

事業の種類別セグメント



所在地別セグメント



(注)所在地別セグメントにおける売上高の比率は、セグメント間の内部売上(又は振替高)を含んだ割合を表示しております。

株式の状況

(平成17年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	360,000,000 株
発行済株式総数	152,460,000 株
当期末株主数	13,011 名

●株主構成比率(所有株式数ベース)



個別貸借対照表

(平成17年3月31日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)	百万円	(負債の部)	百万円
流動資産	13,457	流動負債	18,109
現金及び預金	2,280	支払手形	1,480
受取掛手形	1,395	買掛金	4,732
売掛金	5,639	短期借入金	10,194
有価証券	1,210	未払金	80
製品及び商材	1,322	未払費用	768
原材料	649	未払法人税等	129
仕掛品	143	月掛予約前受金	140
貯蔵品	70	預賞与引当金	119
前払費用	132	その他の流動負債	399
繰延税金資産	242		65
短期貸付金	278	固定負債	25,845
その他の流動資産	171	社債	3,000
貸倒引当金	△ 80	長期借入金	14,867
固定資産	38,368	再評価に係る繰延税金負債	3,932
有形固定資産	20,164	退職給付引当金	3,046
建物及び造作物	3,622	役員退職慰労引当金	199
構築物	49	未払功労金	618
機械装置	65	預り保証金	181
車輜運搬器具	7		
工具器具及び備品	396	負債合計	43,955
土地	15,982	(資本の部)	
建設仮勘定	40	資本金	7,623
無形固定資産	529	資本剰余金	0
借地借家権	426	その他資本剰余金	0
その他の無形固定資産	102	利益剰余金	△ 5,506
投資その他の資産	17,675	当期末処理損失	5,506
投資有価証券	7,154	土地評価差額金	5,732
子会社株式・出資金	3,206	株式等評価差額金	24
長期貸付金	315	自己株式	△ 2
和議債権等	30,000	資本合計	7,871
長期売掛債権	95	負債及び資本合計	51,826
長期差入保証金	477		
繰延税金資産	6,140		
その他の投資金	408		
貸倒引当金	△ 30,124		
資産合計	51,826		

個別損益計算書

(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

		科 目				金 額		
経常損益の部の損益の部	営業損益の部	営業収益	高		百万円	百万円	38,368	
		営業費用	原価	一般管理				
		売上	上	及び	管理	24,764		36,687
			販売	費		11,922		
	営業外損益の部	営業利益						1,680
		営業外収益	受取	利息	当			
		受取	証券	配	差	28		
		有価証券	取	替	取	11		
		雑	替	取	1,329			
			雑	取	7			
			取	75			1,453	
	営業外費用	支	払	利				
	雑	雑		息	630			
				損	180		810	
	経常利益						2,322	
特別損益の部	特別利益	固定	資産	売却	益	82	82	
	特別損失	貸倒	引当	金繰	入額	7,000		
	固定	資産	売却	及び	除却	63		
	た	な	卸	資	産	41		
							7,105	
	税引前当期純損失	法人	税	等	調整		4,699	
	当期純損失	人	税	等	調整		247	
	当期純損失	土	地	再	評価		△1,031	
	当期純損失	当	期	未	処	理	3,915	
	当期純損失						1,592	
	当期純損失						0	
	当期純損失						5,506	

損失処理

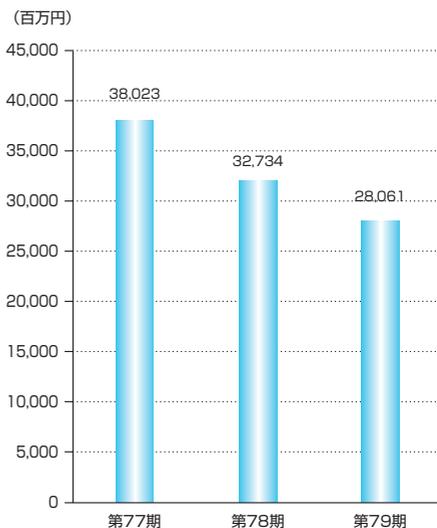
科 目	金 額
当期未処理損失	5,506,483,184 円
これを次の如く処理いたします。	
次期繰越損失	5,506,483,184

個別決算概要

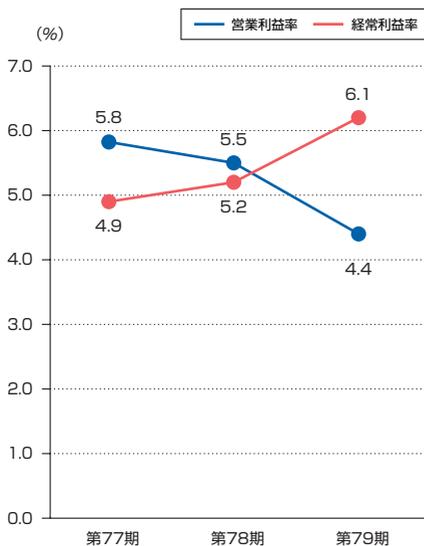
●売上高・営業利益・経常利益



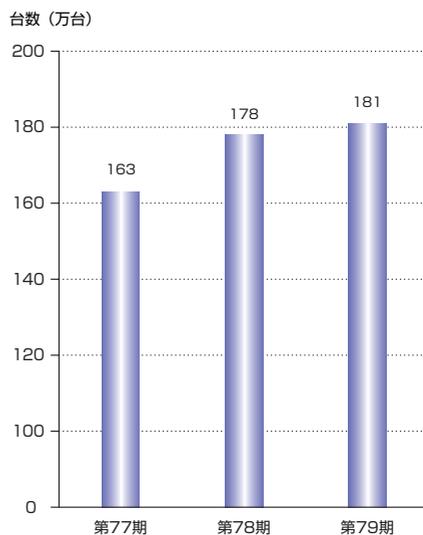
●有利子負債



●売上高営業利益率・経常利益率



●マシン販売台数



●第29回日本ホビーショーに出展

(2005年5月12日～14日、於：東京ビッグサイト)

今回のホビーショー入場者数は、昨年に引き続き10万人を超え、連日多くの来場者で賑わいました。当社ブースでは、「スーパーセシオPC」をはじめ刺しゅう・キルト作品を多く展示することにより、刺しゅうやキルトの楽しさを実感していただき、ミニ教室や刺しゅう体験・商談コーナーは開催期間中、常に大勢の人で賑わい、盛況に終わりました。

ブース内では、「スーパーセシオPC」でカラフル

バッグを作るミニ教室を開講し、手作りの楽しさを多くの方に体験していただきました。

また、刺しゅう体験・商談コーナーでは、レッドワークの刺しゅうをあしらった布巾づくりを3日間で約400名の方に体験していただきました。その他、作品展示コーナーでは、オーストラリア・ジャンメ社が制作したキルト作品や刺しゅうを施した作品を展示しました。



●インターナショナル・キルトウィーク横浜2004に出展

(2004年11月11日～13日、於：みなとみらいパシフィコ横浜)



当社は、キルトミシンをはじめキルト作品を多く展示することにより、キルトの楽しさを実感していただくとともに、11月という時期を勘案し、クリスマス为主题としたディスプレイを取り入れたことにより、キルト教室や体験・商談コーナーには多数の来場者が訪れ、賑わいをみせました。

ブース内では、キルト教室を開講し、約100分でできる「額付クレージーキルト」作りを通じて、手作りの楽しさを体験していただきました。

また、スーパーセシオPC体験コーナーを設け、実際にレッドワークの刺しゅうを体験していただきました。各コーナーには、クリスマスのフープワーク作品や、大型のクリスマスツリーを設置し、パッチワーク・キルトのオーナメントでデコレーションしました。



●AQUA&SPA 2005に出展

(2005年3月8日～11日、於：東京ビッグサイト)

「AQUA&SPA 2005 ～健康と癒しのための展示会～」に、当社業務用24時間風呂を出展いたしました。

当社ブースでは、小・中規模浴場の雰囲気を出して、製品展示の他、モニター画面やパネル類で業務用24時間風呂を紹介し、来場者の注目を集めました。

また、初日に開催されたプレゼンテーションセミナーでは、「入浴環境における細菌汚染とその防除方法」をテーマに、当社社員が発表を行ない、セミナー参加者が熱心に聴講していました。

この展示会は、温泉・温浴・スパからプール・エステまで、「健康」と「癒し」を提供する施設関係者を対象とした日本で最大級の業界向け展示会です。



●プロ野球、楽天球場の足湯コーナーにバスエースが導入される



2005年4月、楽天ホームグラウンド「フルキャストスタジアム宮城」の三壘側スタンド裏に、足湯「楽天イーグルス温泉スタジアム」が登場し、業務用24時間風呂「バスエース」が設置されました。

約5m×3mの浴槽に、猪苗代温泉のお湯を入れて、ファンに野球だけでなく足湯も楽しんでもらおうと、全国名湯普及促進委員会がプロデュースしました。

今後は、対戦カードごとに東北各地の名湯を入れ、ファンに楽しんでもらいたいとのことです。

●第34回インターネブコン・ジャパンに産業機器商材を出展 (2005年1月19日～21日、於：東京ビッグサイト)

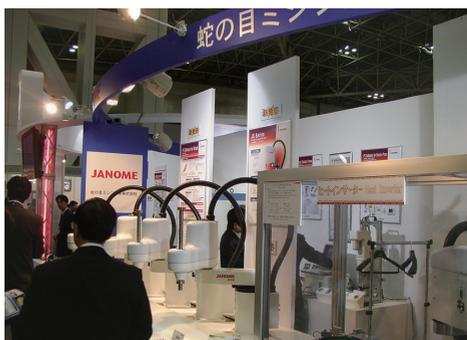
当社産業機器事業部は、3年連続してアジア最大の電子部品アSEMBリー関連ショー「インターネブコン・ジャパン2005」に出展いたしました。

今回は、展示ブースを昨年の2倍とし、新発売の卓上ロボットJR2000Nシリーズをはじめ、サーボスカラロボットJSシリーズ、ガントリロロボットなどを展示いたしました。

特に、ガントリロロボットを用いた操作体験コーナーが来場者の興味をひき、ロボットの応用事例として「ヒートインサータロボット」、「DNA（遺伝子）分析ロボット」、「スイッチ類荷重測定ロボット」を展示いたしました。

エレクトロプレスについては、普及型エレクトロプレスPEシリーズ（ユニットモデル）と好評のエレクトロプレスJPシリーズを展示し、応用事例としては、フレキシブル基盤のハーフカット作業をお見せいたしました。

当社ブースへの3日間の来場者数は400名以上におよび、盛況裡に終了いたしました。



湯名人の CM ソングが着うたサイトに掲載

テレビ、ラジオCMでお馴染みの湯名人コマーシャルソング「ゆ、ゆ、湯～の湯名人」の「着うた」が携帯サイト「TSUTAYA着うたサイト うたチャンネル!」に掲載されました。

※ダウンロードには、入会（登録）が必要です。（月額300円・500円の2コース）
DoCoMo（FOMAのみ）、au、Vodafone!に対応します。（2005年4月）

各携帯ごとのアクセス方法は、パソコンより下記URLをご参照下さい。

<http://www.tsutaya.co.jp/mobile/utachan/index.html>

うたチャンネル!での操作方法：メインメニュー / 人気CMソング / 生活→蛇の目「湯名人」



*台湾ジャノメ創立35周年記念式典（2004年11月）

当社生産子会社の台湾・ジャノメミシン(株)の創立35周年およびミシン生産累計2千万台達成の記念式典が、加藤社長、中道副社長、鈴木専務をはじめ、関係者約330名出席のもとに開催されました。

同社は、1970年（昭和45年）からミシン生産を開始し、2004年度には過去最高の121万台を達成するなど、家庭用ミシンの生産数量では世界No.1の地位を確立しています。



*タイ・ジャノメがISO14001認証取得（2004年12月）



当社生産子会社であるタイ・ジャノメ(株)（タイ国チョンブリ県シラチャ市、喜多村昌幸社長）が、ISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、2005年1月5日、タイ・ジャノメ社にてTQA脇屋社長より登録証が授与されました。

同社は、2004年に創業15周年を迎え、同年9月にはミシン・モーター・コントローラーそれぞれが過去最高の生産台数を達成するなど、今後も品質・コスト・納期についてお客様に満足していただける製品を提供してまいります。

*第2回・第3回無担保社債（私募債）を発行（2005年3月）

2004年9月に発行した第1回無担保社債に続いて、第2回・第3回無担保社債（私募債）を発行しました。今回発行した無担保社債は、株式会社あおぞら銀行（第2回）と中央三井信託銀行株式会社（第3回）が、それぞれ10億円ずつ全額を引受けました。

この発行により調達した資金は、銀行借入の返済資金に充当され、財務体質の強化に寄与しています。

*お客様の個人情報保護のための研修会を開催（2005年3月）

2005年4月1日から全面施行された個人情報保護法の正しい理解・周知徹底を目的として、社団法人日本クレジット産業協会より講師をお招きして開催したものです。

今回の講演では、個人情報保護法の概要、個人情報取扱事業者である当社が遵守すべき義務等、また個人情報保護の安全管理体制の構築を主要テーマに詳細な説明ならびに質疑応答がなされ、出席した役員以下の社員が熱心に聴講いたしました。

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	6月下旬
基準日	3月31日
名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)
(電話照会先)	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	電話 03(3323)7111(代表)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
株式取扱手数料	名義書換……………無料 新券交付……………1枚につき200円 単元未満株式の買取りおよび買増し ……………株式の売買の委託に係る手数料 相当額として別途定める金額
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞 貸借対照表及び損益計算書に関する情報は、当社ホームページ http://www.janome.co.jp に掲載しております。

お知らせ

◎住所変更、単元未満株式買取および買増請求、名義書換請求、株券喪失登録手続、配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120(87)2031で24時間受付しております。

蛇の目ミシン工業株式会社

〒104-8311 東京都中央区京橋 3-1-1
TEL 03(3277)2071
ホームページアドレス <http://www.janome.co.jp>

